〈研究主題〉

わかる、できる、好きになる授業を目指して
～自ら進んで伝え、学び合う授業～

今、求められている力

「知識基盤社会」と言われる現代社会は、国際化、情報化、価値観の多様化などにより急激なスピードで変化し続けている。次代を担う子どもたちには、このような社会の中で、他者とかかわり合いながら幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて自ら考え、的確に判断し、主体的に表現するなど変化に対応する資質や能力が不可欠である。

学習指導要領では

〇基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得

〇知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

〇主体的に学習に取り組む意欲の育成

研究主題設定の理由

本校では、平成24年度より「わかる、できる、好きになる授業を目指して」を研究主題として掲げ、児童が「自ら進んで伝え、学び合う授業」づくりの研究実践に取り組んできた。授業の導入段階での「ねらいの明確化」、展開では互いに考えを伝え合う「学び合いの場の設定」、終末における「振り返りの場の設定」という一単位時間の学習指導の流れを意識した授業改善を図ってきた。こうしたペアやグループ、全体での交流による学び合いの学習スタイルの定着により、話形を手がかりに進んで発言する児童が増え、伝え合う楽しさやよさを感じる児童の姿が多く見られるようになってきた。しかし、学び合いの場は設定したものの、互いの考えを整理したり関連づけたりしてよりよい考えに導こうとするなど、児童が活発に思考するような深まりのある学び合いの場とはなっていないという課題がある。その原因としては次のようなことが考えられる。

・語彙の少なさや表現力の乏しさのため、自分の思いや考えをよりよい方法や表現を選んで、相手に的確に話したり書いたりして伝えることが難しい。

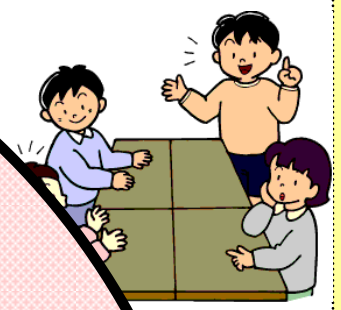
・相手が何を伝えたいのか視点を持って聞き取ったり、情報を関連づけて読み取ったり考えたりすることが難しい。

これらの課題は各教科の学習のベースとなる力、すなわち思考力・判断力・表現力の課題と捉えることができ、国語科における「書くこと」「読むこと」の指導と密接に関連しているといえる。

そこで、今年度は、国語科における「書くこと」「読むこと」の力の向上を目指して授業改善を図っていくことにより、自ら進んで課題を解決しようと柔軟に思考したり、的確に判断したりして、自分の思いや考えを伝えようする児童を育てていきたいと考えた。

灘小授業づくりのイメージ図

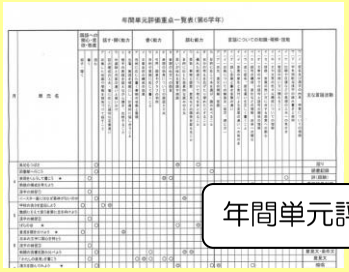
（①②は、今年度の重点取組ポイント）



付けたい力の明確化

◆６年間を見通した計画的系統的な指導

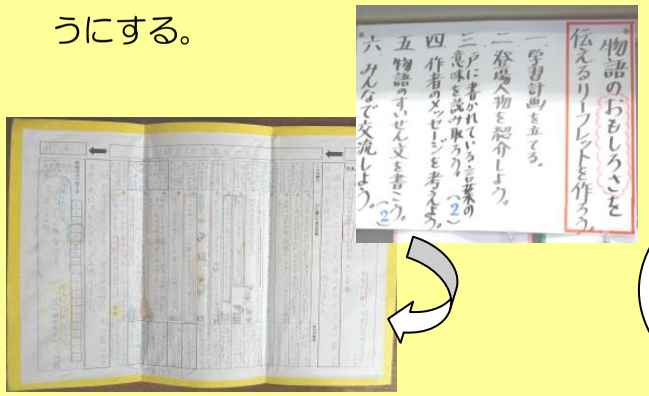
１～６年までの国語科の指導事項を整理し直し、当該学年で身に付けさせるべき指導事項を明確にした。全校体制で小学校の６年間の学習内容を見通した計画的で系統的な学習指導を展開する。



年間単元評価重点一覧表

◆ねらいとゴールの具体の姿の明確化

単元のねらいと単元末のゴールイメージを明確に示すこと、一単位時間のねらいとゴールの姿を明確に示すことで、学習過程に目的と見通しを持たせ、児童が主体的に学習に取り組むことができるようにする。



◆適切な言語活動の選定

単元目標と児童の実態、教材の特性に応じた適切な言語活動を位置付ける。授業の導入から終末のゴールに向かって児童がより主体的に学び、指導事項を確実に身に付けることができるようにする。

好きになる

学びの喜び　　学習意欲のさらなる高まり

授業評価「〇〇の学習が好き」が８０％以上

（児童の変容の見取り）

① 付けたい力の明確化

② 学びと学び方の効果的な習得の場の設定

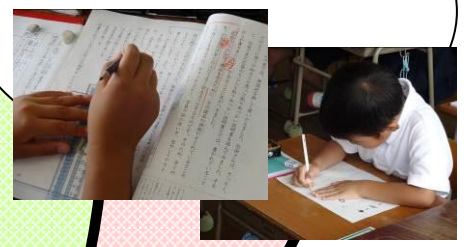
できる

目的に応じて活用

実生活への結びつけ

③ 児童の意欲を喚起し、ねらいに迫る発問・教具の工夫

④ 自分の考えをもたせる場の設定



わかる

学習内容の理解

学び・学び方の習得

⑤ 伝え合い（学び合い）の場の設定の工夫

⑥ 構造的な板書

〇授業評価の実施　　〇やまぐち学習支援プログラムの活用

〇「灘小話形」の活用　　〇家庭学習の充実「灘小家庭学習の手引き」

〇基本的学習習慣の定着（場に応じた声の大きさ、場に応じた言葉遣い、学習の身構え、学習の物構え、ノート指導など）

〇心の教育の充実　　〇支持的学級風土づくり　　〇読書指導の充実

＜学習の基盤となる力＞

学びと学び方の効果的な習得

◆振り返りの場の工夫

学びの振り返りの場面では、単に場の設定をするだけでなく、児童が学習の評価を確実に行うことができる場づくりを工夫し、学びと学び方の効果的な習得につなげていくように導く。

授業の終末で「今日の学習で何がわかったか」、「どのような考え方で課題を解決したのか」、「なぜできなかったのか」等を考えさせたり、問題解決の過程で自分の学習についてモニタリングしたりすることで、児童自身が自分の学習を振り返り、評価することができる。さらに、「今回学んだことを、他の場面では活用できないか」と一般化して考えるなど学びを目的に応じて活用させるようにする。

このように児童自身が学びの豊かさを実感したり、価値を納得したりすることが大切である。こうした活動をきちんと位置付けた授業展開をしていくことが、学びと学び方の確実な習得につながると考える。

学びの振り返り

学び方の振り返り

学習の基盤となる力の向上を目指して

学校の組織的な取組

指導方法の工夫改善

家庭・地域社会との連携・協働

学習環境の整備

学習習慣の確立

授業公開の日常化

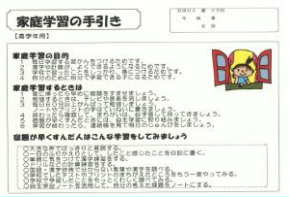
- 学力向上推進教員来校日（毎週木曜日の１～４校時）
  国語科の授業公開
- ミニ研修会の実施
（授業改善の共有化）

やまぐち学習支援プログラムの活用

- 朝学、授業、家庭学習で活用
- 「読むこと」「書くこと」を中心に、週一回朝学での取組
- 学力定着状況確認問題、学期末評価問題等の検証 ⇒ 授業改善へ

家庭学習の充実

- 「灘小家庭学習の手引き」
（低、中、高学年版）



心の教育の充実

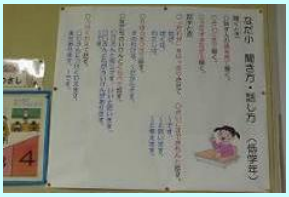
- 教育活動全体を通じた道徳教育
- 灘小道徳参観日の実施（１０月参観日）
- 学年掲示板道徳コーナー常設

授業評価の実施

- 授業参観シート（教師→教師）
- 授業参観アンケート（保護者）
  参観日に実施→授業改善へ

「灘小基本話形」の活用

- 各教室に掲示して活用

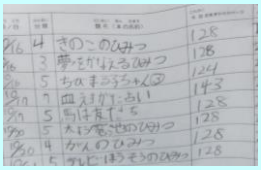


基本的学習習慣の定着

- 場に応じた声の大きさ、言葉遣い
- 学習の身構え
  （姿勢、聞く・聴く態度、チャイムの合図）
- 学習の物構え（学習用具の準備、扱い方）
- ノート指導

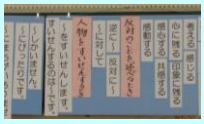
読書指導の充実

- 全校一斉の朝読（毎週木曜日朝学）
- 家族読書、読み聞かせ、灘小読書貯金通帳、各学年必読書等の取組



学習環境の整備

- 教室掲示・学年掲示板の活用



【取組の成果と課題】

成果

○ 本校児童の課題である「読むこと」「書くこと」を重点化した指導計画を作成し、6 年間を見通した学習指導を効果的に展開することができた。

○ 「単元を貫く言語活動」を設定することで、児童は目的意識を持って主体的に思考、判断しながら、単元のゴールに向かい、自分の思いや考えを意欲的に表現することができた。

○ 学びの振り返りにより、学習したことを再確認することができ、学びの定着を図ることにつながった。また、習得した学び方を他の学習に活用できる場面が多く見られた。

課題

○ 付けたい力のより確実な定着を図るためには、その単元で設定する「単元を貫く言語活動」のしっかりとした吟味が重要となる。教材の特性を十分に理解し、児童の実態をふまえた上で、どんな言語活動を設定することが付けたい力につながるのか、どのように単元構成するとより効果的かをじっくりと吟味しなければならない。今年度の取組の検証結果を踏まえて、各学年の年間単元評価計画を再考する必要がある。

○ 単元のゴールに向かうためには、一単位時間ごとのねらいを確実に達成していかなければならない。そのためには、一単位時間ごとのねらいと評価規準をより明確にする必要がある。児童のゴールの姿をもっと具体化して授業を仕組むようにしなければならない。

○ 振り返りの時間を十分に確保できないこともあった。学びと学び方の習得につながる振り返りの時間を確実に確保するようにして、45 分の授業を仕組む必要がある。

○ 活用力の向上には、児童が思考力、判断力を十分に働かせ、自分の思いや考えを的確に表現できることが重要である。これらの力は、コミュニケーション力を含めた児童一人一人の基礎的な力に支えられている面が大きい。学校全体で、児童の言語環境を整えて土台となる力をさらに高める必要がある。